



2 セットアップ

Expressサーバを取り扱う上で、知っておいていただきたいことについて説明します。

- 設 置(→16ページ) Expressサーバの設置にふさわしい場所やラックへの搭載手順について説明しています。
- 接 続(→29ページ) 背面のコネクタへの接続について説明しています。
- 電源のON(→33ページ) システムの電源を正しくONにできることを確認します。
- Microsoft Windows Advanced Server, Limited Edition 1.2
のインストール(→35ページ) Expressサーバがサポートするオペレーティングシステム「Winodws Advanced Server, Limited Edition 1.2」のインストール手順について説明します。再インストールの際にも参照してください。
- EXPRESSBUILDERについて(→49ページ) E x p r e s s サーバに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の使用方法について説明します。
- RASユーティリティ(EFI)について(→50ページ) システムの信頼性を高めるためのユーティリティの起動コマンドを説明しています。
- バンドルソフトウェアについて(→51ページ) E x p r e s s サーバに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されている各種バンドルソフトウェアについて紹介します。これらのソフトウェアをインストールして、Expressサーバを管理してください。

設 置

ExpressサーバはEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。

ラックの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で搬送・設置をしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- 1人で部品の取り付けをしない
- ラックが不安定な状態で本装置を取り付けない

必ずラックを安定させた状態(スタビライザの設置や耐震工事など)で取り付け/取り外しを行ってください。

- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を超える配線をしない

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックにExpressサーバを搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施せない場所。
- 床におうとつ(凹凸)や傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所(大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など)、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本装置の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。



ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、本装置の動作保証温度(10℃~35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

ラックへの取り付け

Expressサーバをラックに取り付けます(取り外し手順についても説明しています)。別売の内蔵型オプションを購入している場合は、ラックに取り付ける前に取り付けてください。

⚠ 注意

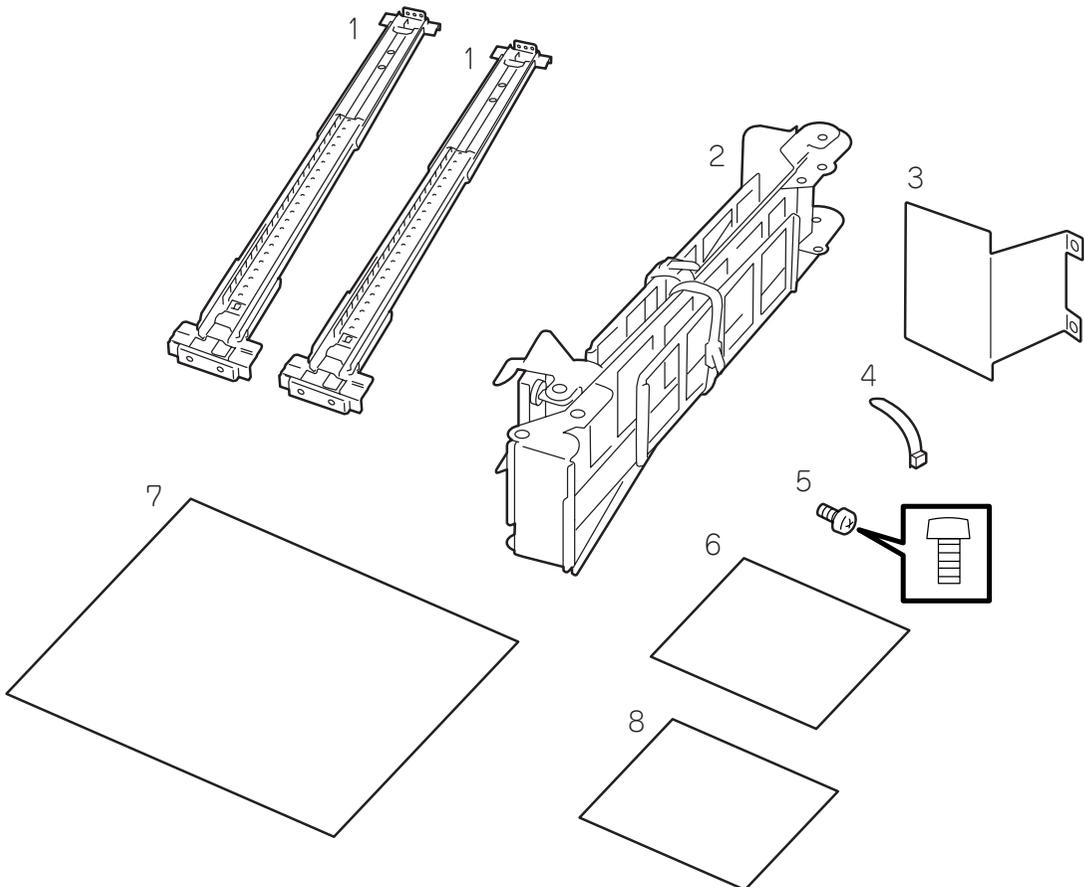


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指定以外の場所に設置しない
- 本体のカバーを外したままラックへ取り付けない
- 指を挟まない

取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。



項番	名 称	数量	備 考
1	スライドレール	2	インナーレール付き
2	ケーブルアーム	1	
3	アームストッパ	1	
4	ケーブルタイ	5	ケーブル固定用
5	ネジ(M5-15)	4	ケーブルアームとアームストッパ固定用
6	ラック取り付けシール	1	
7	テンプレート	1	取り付け位置確認用
8	テンプレートの使い方	1	説明書

必要な工具

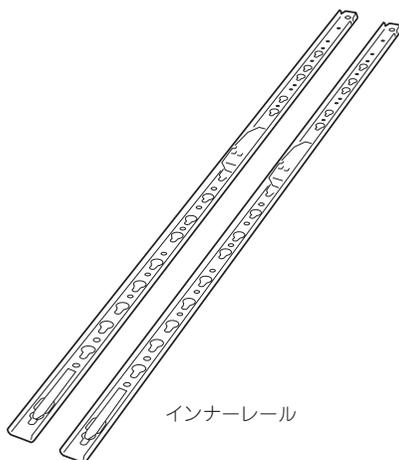
ラックに固定/取り外しする際にTorxドライバー(T-25)とプラスドライバーを使用します。取り外しの際には、マイナスドライバーも用意してください(スライドレールの取り外しの際に使います)。

取り付け手順

本装置はNEC製および他社製のラックへ取り付けすることができます。次の手順で装置をラックへ取り付けます。

1. スライドレールからインナーレールを引き抜く。

インナーレールを本体に取り付け、スライドレールはラックに取り付けます。



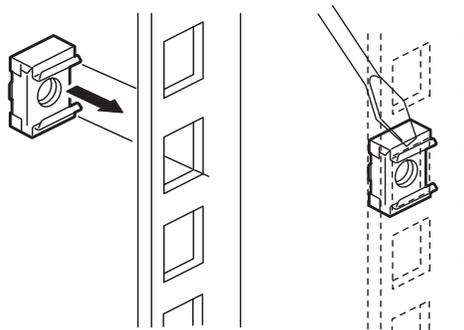
2. テンプレートを使って装置を取り付ける位置(高さ)を決める。

テンプレートは、両脇のグレーに色分けされた部分が本装置の取り付け高さとなります。また、ラック背面の位置決めの際に右側の上側および下側それぞれ2番目の位置に内側からコアナット(合計2カ所です)を取り付けます(後の工程でこのコアナットを使用してアームストッパを固定します)。

コアナットは下側のクリップをラックの四角穴に引っかけてからマイナスドライバーなどで上側のクリップを穴に差し込みます。

重要

テンプレートにはコアナット取り付け位置が表示されていません。



3. スライドレールの長さを調整するためにスライドレールのガイドストッパを外し、スライドレールを分解する。

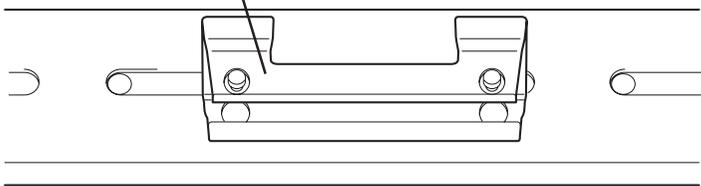
注意



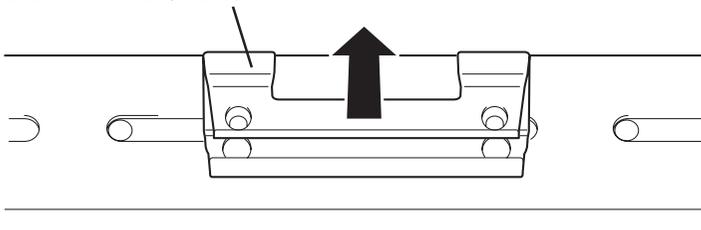
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指を挟まない

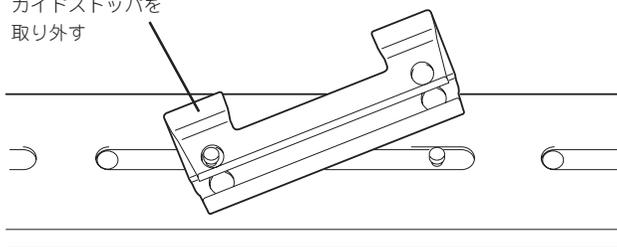
ガイドストップのプレートを開く(プレートで指を挟んだりしないよう十分注意してください)



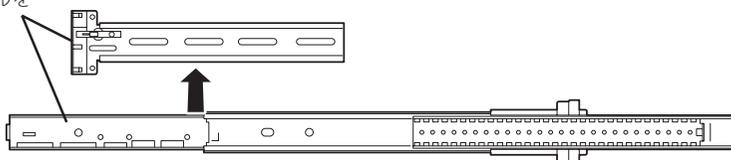
プレートを開きながら矢印方向へスライドさせる(ガイドストップ固定ピンからストップが外れます)



ガイドストップを取り外す

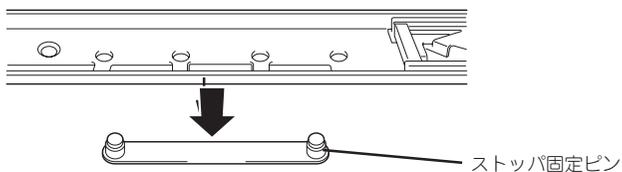


スライドレールを分解する

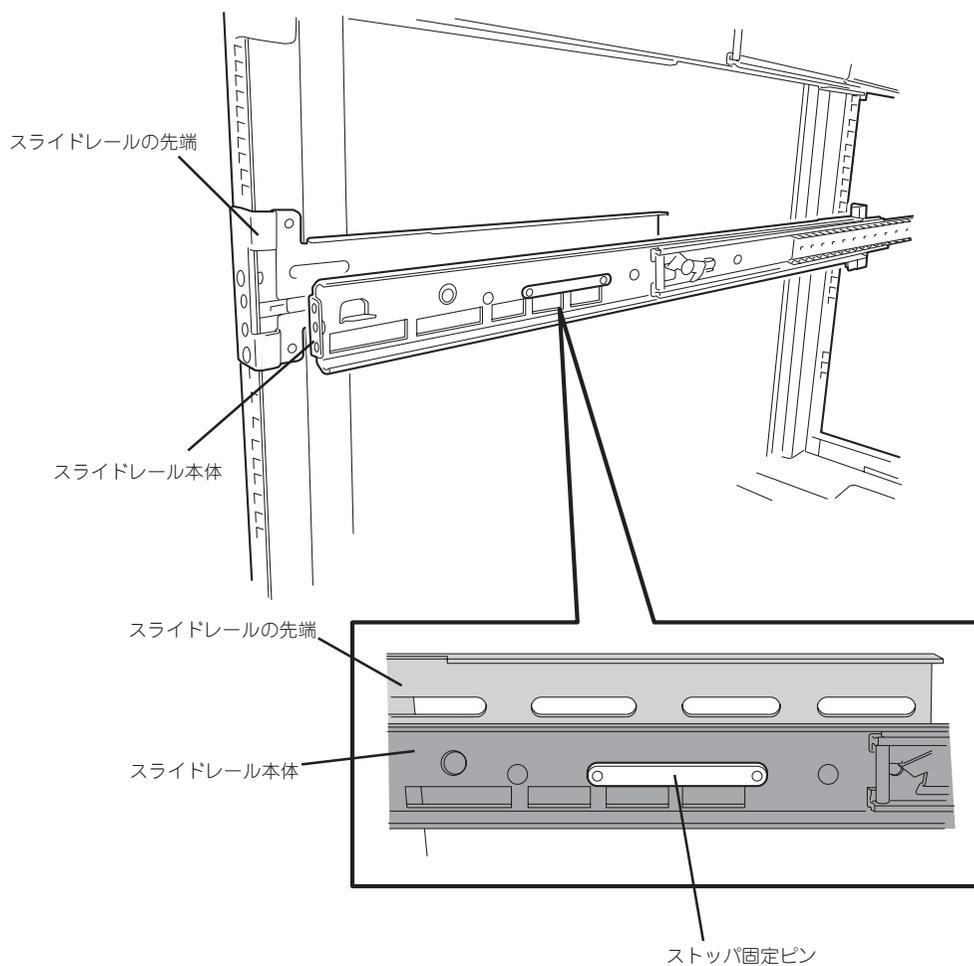


重要

ガイドストップを取り外すとスライドレールのガイドストップを外した側のスライドレールの先端部分とストップ固定ピンが一緒に外れます。



4. スライドレールの先端をラック前面のフレームに合わせ、スライドレール本体をラック後面のフレームに合わせ、ストップ固定ピンの取り付け位置を確認する。

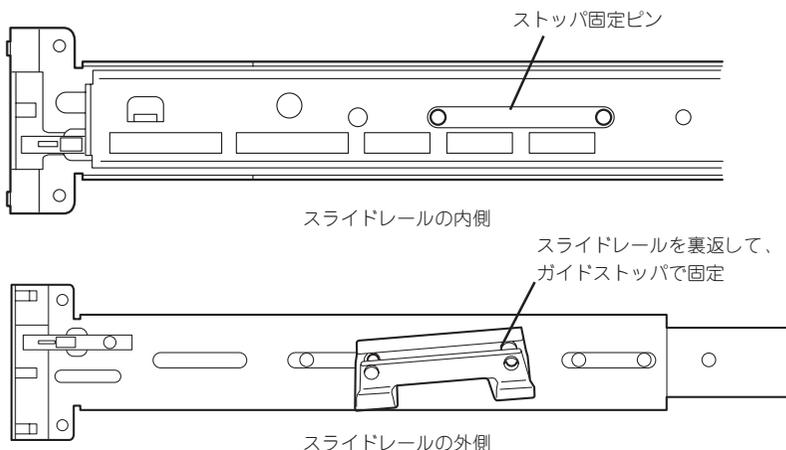


5. いったんスライドレール本体とスライドレール先端部分をラックから取り出して、手順4で確認した取り付け位置にストッパ固定ピンを取り付け、スライドレール先端をスライドレール本体に取り付け、ガイドストッパで固定する。

もう一本のスライドレールも同様に長さ調整をしてください。

重要

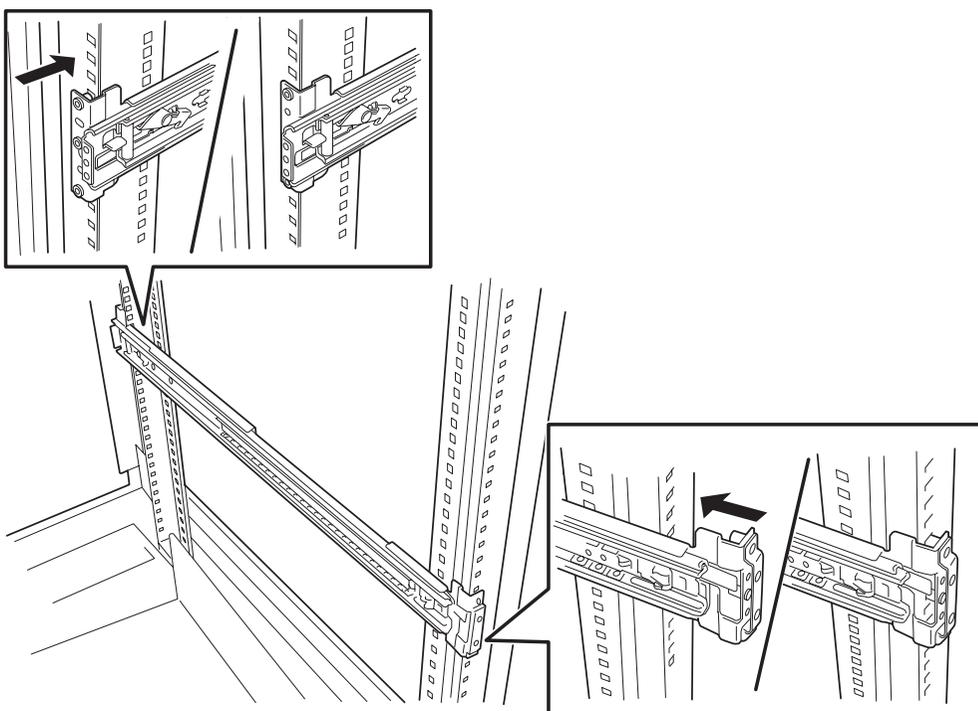
スライドレール先端部分は自由にスライドできます。



6. スライドレールの前面をラック前面に当て、テンプレートで確認した位置でスライドレールのピンをラック外側からはめ込む。

この時スライドレールの位置決めピンがラックのフレームを差し込まれます。

7. スライドレールの背面側をラック背面に当て、前面の場合と同様にはめ込む。



8. 反対側のスライドレールも手順6、手順7を参照して取り付けます。

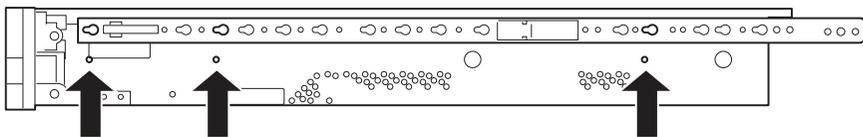


チェック

すでに取り付けているスライドレールと同じ高さに取り付けていることを確認してください。

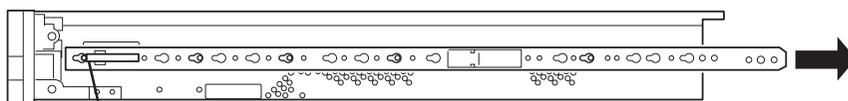
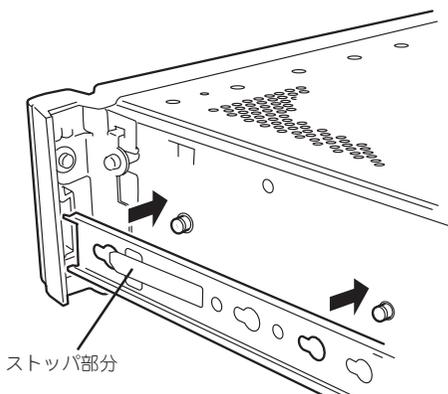
9. 本体側面にインナーレールを取り付ける。

本装置側面にピンが3つあります、



インナーレールのストッパ部分を本装置前面のピンに当て(残りの2つのピンは自然にインナーレールの所定の位置に収まります)、インナーレールを本装置側に押しながら装置の背面方向にスライドさせるとストッパがピンを噛み込んでインナーレールが固定されます。

反対側のインナーレールも同様に取り付けます。



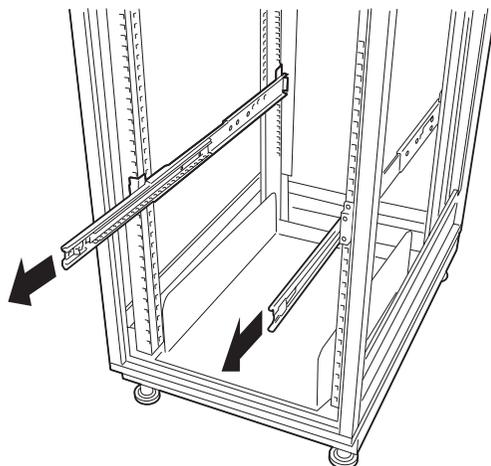
ストッパがピンに引っかかる



チェック

3カ所のピンがインナーレールの所定の位置に取り付けられていることを確認してください。

10. ラックに取り付けたスライドレールがラッチされるまでラック前方に引き出す。



⚠ 注意

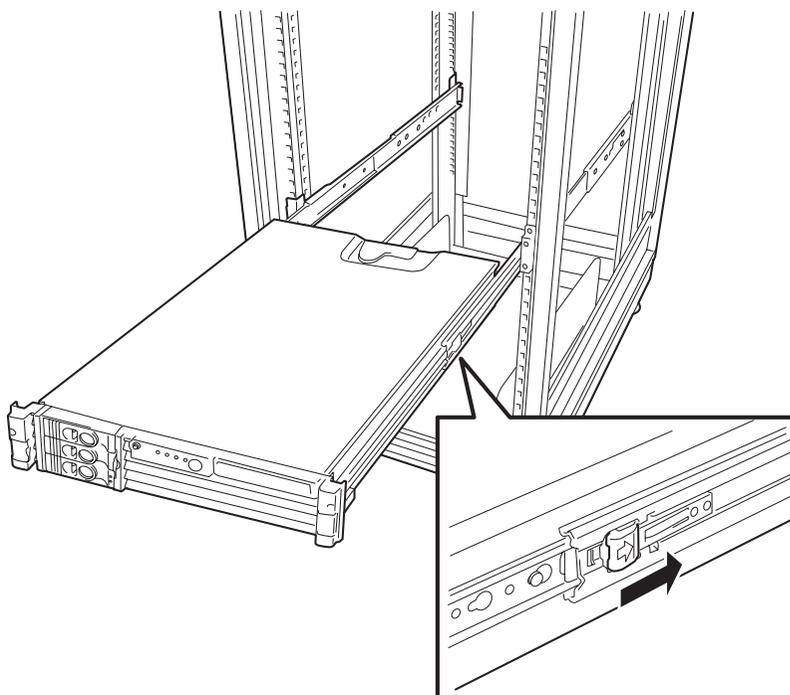


装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指を挟まない

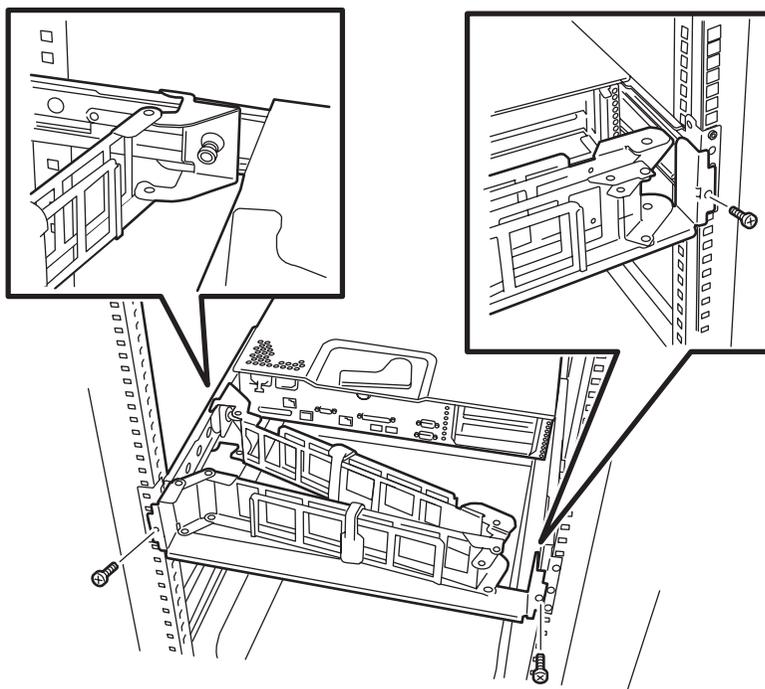
11. 2人以上でExpressサーバをしっかりと持って、スライドレールにインナーレールを入れ、Expressサーバをラックに搭載する。

12. リリースレバーを押してラッチを解除して、Expressサーバをゆっくり静かにラックに収納する。



13. スライドレール後端にケーブルアームを取り付ける(左右2カ所、ネジ(M5-15))

14. インナーレールにケーブルアームを取り付ける(1カ所、Torxネジ：T-25)

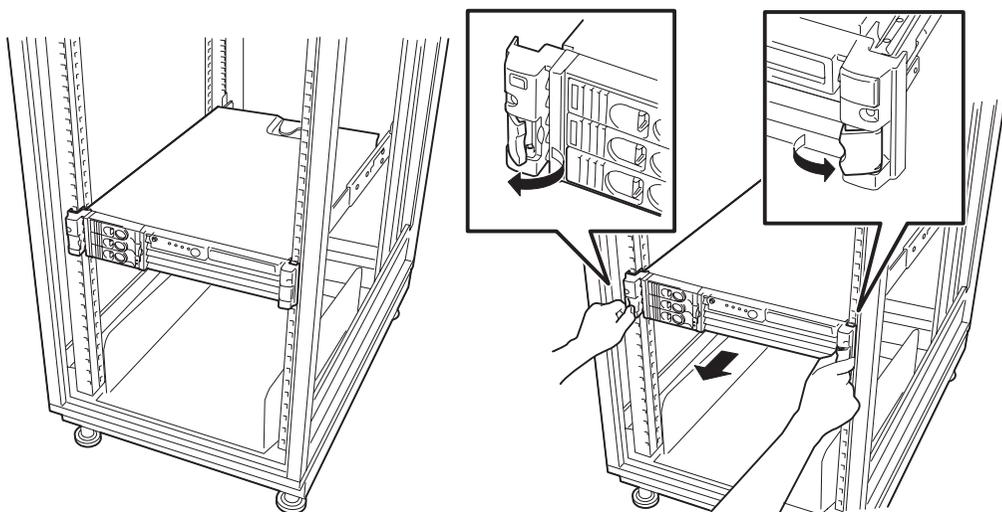


15. ケーブルアームを取り付けた後、次の点についてチェックする。

- アームがスムーズに開閉すること
- 装置が引っ掛かることなく引き出せること
- 装置を押し込んだ際にアームがスムーズに閉じること

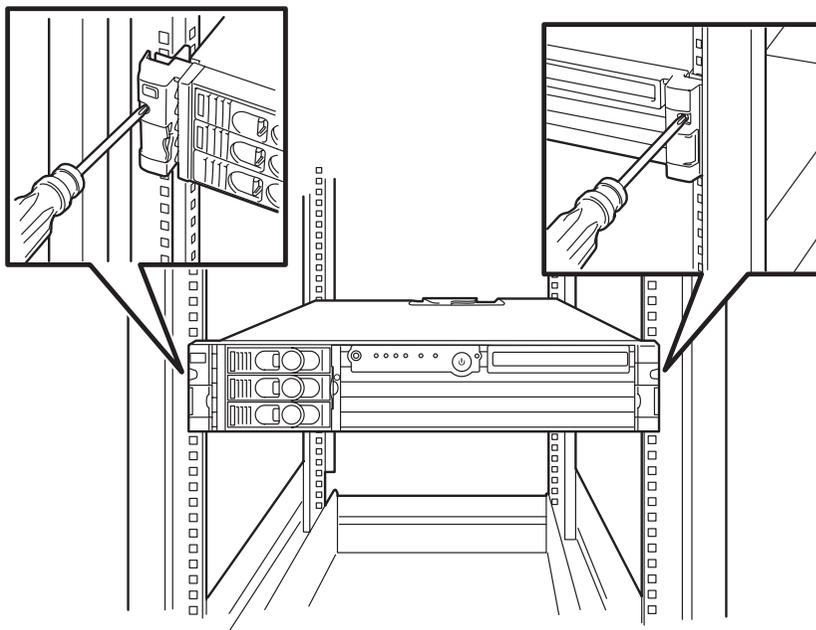
16. Expressサーバをいったんラックに押し込んで取り付け位置を確認する。

Expressサーバをラックから引き出す際は、Expressサーバの両端のラックリリースレバーを開きながら引き出します。



17. Expressサーバを何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。
18. Expressサーバを2本のネジ(フロントベゼルに内蔵のTorxネジ: T-25)でラックに固定する。

以上で完了です。



ラックからの取り外し

ラックからの取り出し作業は「取り付け手順」に示す手順の逆を行ってください。必ず2人以上で行ってください。

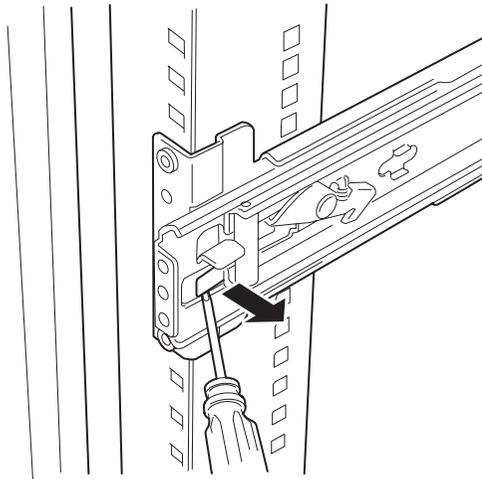
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない

ラックに取り付けたスライドレールは、スライドレールのロックプレートでラックに固定されています。スライドレールをラックから取り外す際は、ロックプレートをマイナスドライバを使って引っ張りながらラックのフレームからレールの先端部分を抜いてください。



ラック背面側

接 続

周辺機器と接続するためのインタフェースケーブル、添付の電源コードの順に接続します。

周辺機器との接続

Expressサーバと周辺装置を接続します。

Expressサーバの背面には、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図はExpressサーバが標準の状態では接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードをExpressサーバに接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。

⚠ 注意



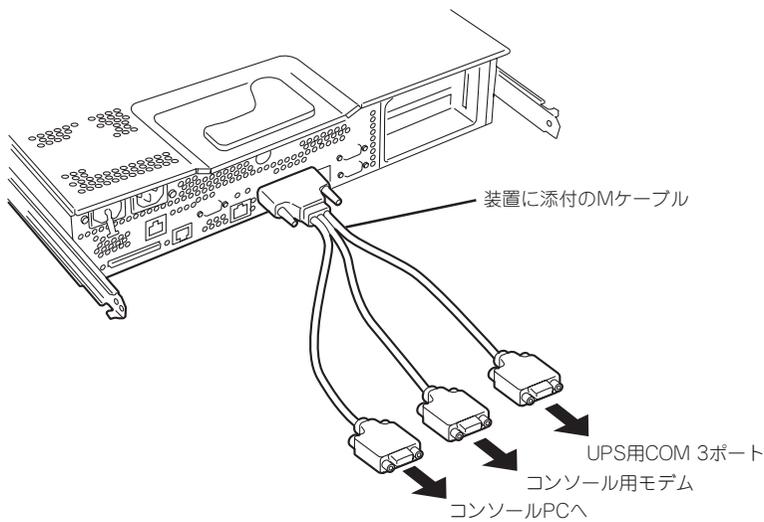
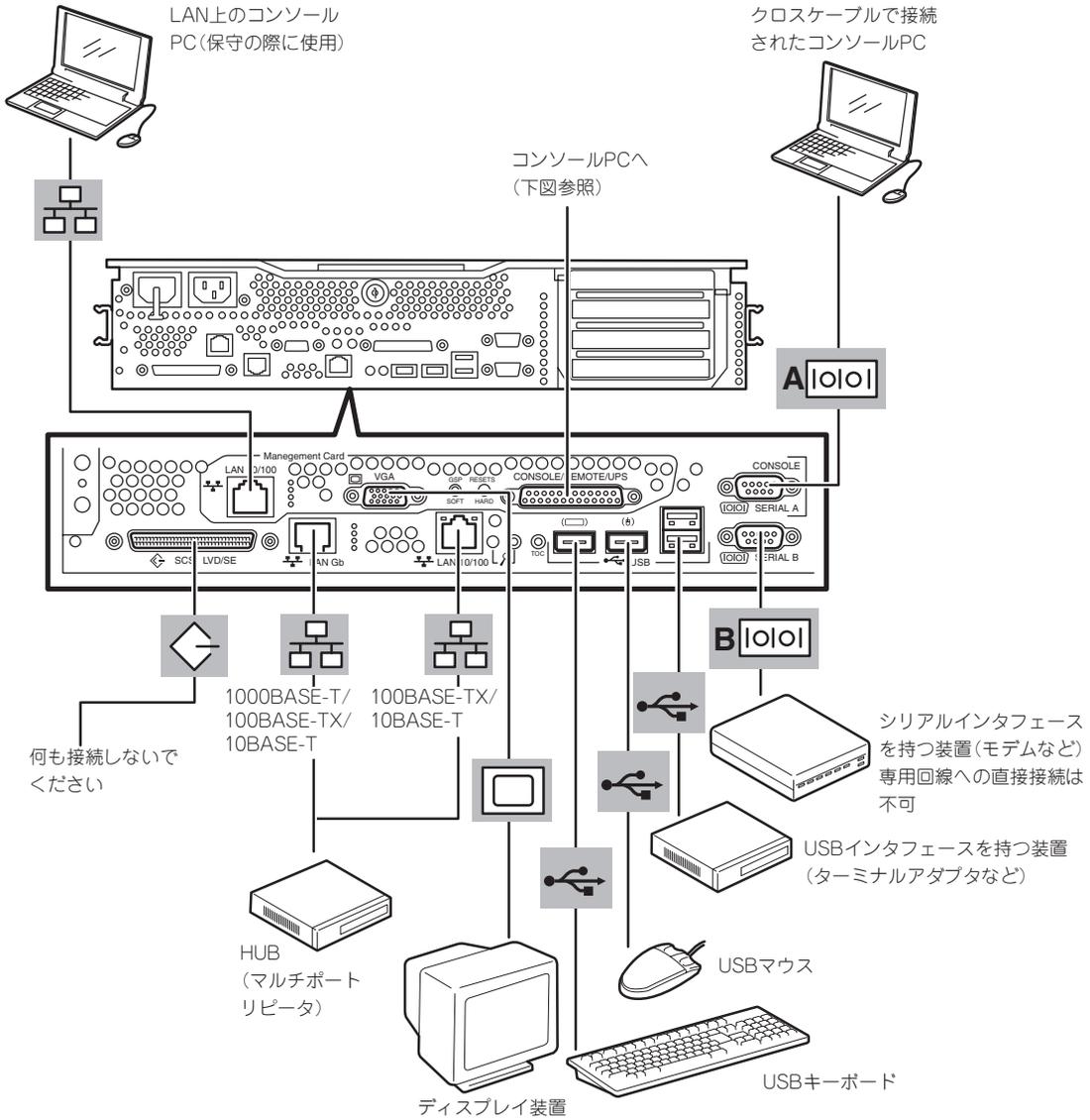
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない
- 指定以外のインタフェースケーブルを使用しない



重要

- Expressサーバ、および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- NEC以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置がExpressサーバで使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中にはExpressサーバで使用できないものがあります。
- Expressサーバ本体に標準装備のシリアルポートから専用回線に直接接続することはできません。専用回線へ接続する場合には、必ず回線電気通信事業法で定められた認定を受けた端末機器から接続してください。(専用回線とは、特定の利用者に設置される専用の伝送路設備、およびその付属設備を指します。日本電信電話株式会社等の公衆回線も含まれます。)
- 外付けSCSI機器(N8151-28 内蔵AIT)を接続する場合、オプションのSCSIコントローラ(N8103-56)とデバイス増設ユニット(N8141-28A)が必要です。
- UPSを使用する場合は、アプリケーションをインストールする際に、USBフロッピーディスク(N8460-002)が必要になります。



電源コードの接続

インタフェースケーブルの接続が完了したら、電源コード(1本・2台の電源ユニットを搭載している場合は2本)を本体背面にあるACインレットに接続します。AC100Vで使用される場合は添付の電源コードを使用します。また、AC200Vで使用される場合はオプションの専用の電源コードを使用します。Expressサーバの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

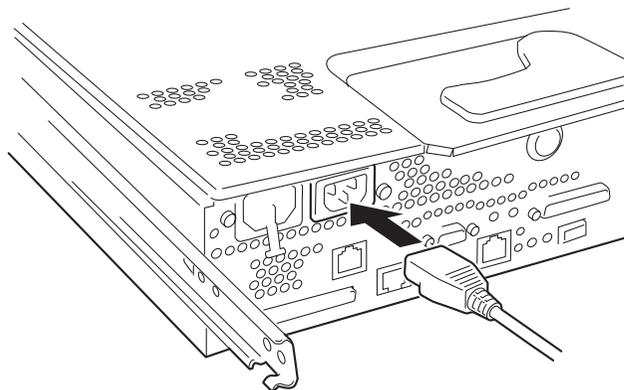
- ぬれた手で電源プラグを持たない
- アース線をガス管につながらない

注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない

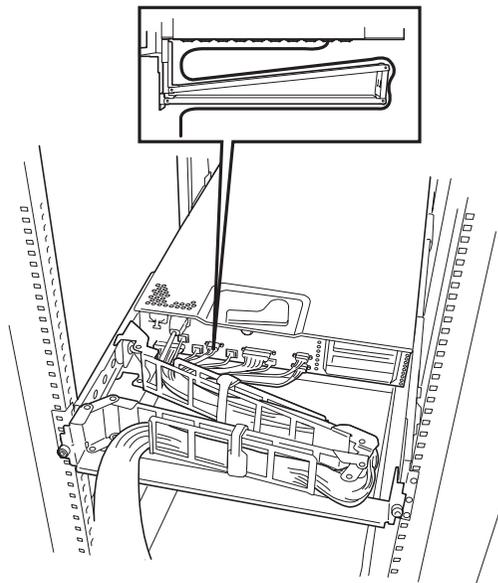


電源コードを接続すると、装置前面に取り付けられた電源ユニットにある電源ステータスランプ(上側)が点灯します。消灯したままの状態の場合は、本体にAC電源が供給されていないことを示します。プレーカや接続しているコンセントの状態を確認してください。UPSに接続されている場合はUPSの状態も確認してください。

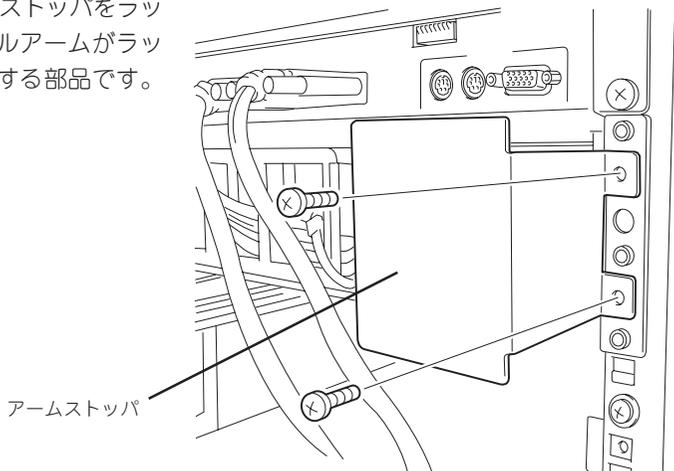
すべてのケーブルと電源コードの接続が完了したら、添付のケーブルタイで本体背面にあるケーブルアームにケーブルを束ねます。

ケーブルを束ねた後、何度か装置をラックから引き出してみてください。引き出したときにケーブルが引っ張られていたり、アームに引っかかっていたりしていないことを確認してください。

電源コードは引き出したときになんらかのものに引っかかって抜けることがないようにACインレット部分で少したるむ程度の余裕を持たせてください。



最後にネジB(2本)でアームストッパをラックに取り付けます。ケーブルアームがラック背面に飛び出すのを防止する部品です。以上で接続は完了です。



電源のON

システムの電源がONになることを確認します。

POWERスイッチを押す

周辺機器の電源をONにした後、本体前面にあるPOWERスイッチを押します。スイッチを押すと前面のPOWERランプ(💡)が点灯し、POST (Power-On Self-Test)を開始します。POST中の処理の内容はディスプレイに表示されません。コンソールを接続すると、接続したコンソールの画面から内容を確認することができます。



コンソールを接続して表示内容を見る場合は、3章「システム設定の変更」の「システム設定を変更する前に」を参照し、コンソールを設定してください。



POWERスイッチを3秒以上の押し続けると、2回に分けてビープ音が鳴ります。1回目の長いビープ音は異常ではありません。2回目のビープ音は故障箇所を特定する音です(135ページ参照)。

POSTのチェック

POST (Power On Self-Test)は、Expressサーバの自己診断機能です。

POSTはExpressサーバの電源をONにすると自動的に実行され、DIMMやプロセッサ、キーボード、マウスなどをチェックします。

POST中の処理の内容はディスプレイに表示されません。コンソールを接続すると、接続したコンソールの画面から内容を確認することができます。

POSTの実行内容は常に確認する必要はありません。次の場合にPOST中に表示されるメッセージを確認してください。

- Expressサーバの導入時
- 「故障かな?」と思ったとき
- 電源ONからOSの起動の間に何度もビープ音がしたとき
- ディスプレイ装置になんらかのエラーメッセージが表示されたとき

POSTの流れ

次にPOST実行時に注意する点を説明します。

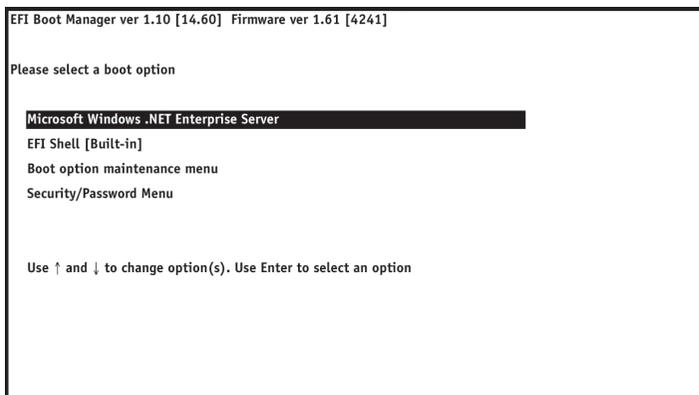


POST中、以下の表示をしますが、問題ありません。

```
Starting HP-EFI1.1 USB Keyboard Driver - Version 0.19
..
USB Mouse found
..
No Valid USB Keyboards found, Exiting HP-EFI USB Keyboard Driver.

Starting HP-EFI1.1 USB Keyboard Driver - Version 0.19
..
USB Keyboard found
...0 0 0x0002B9 0x000000000000000012 EFI POST code
```

POSTを終了するとBoot選択画面(EFI Bootマネージャ)が起動します。カーソルキーを使ってBoot先を選択し、<Enter>キーを押します。選択を行わないと一番上にある項目が30秒後に自動的に実行されます。EFI Bootマネージャの詳細については3章を参照してください



POSTのエラーメッセージ

POST中にエラーを検出するとディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示するか、ピープ音が鳴ります。エラーメッセージの表示内容やピープ音の鳴り方(ピープコード)、その意味と対処方法については4章を参照してください。



保守サービス会社に連絡するときは表示されたエラーメッセージやピープ音のパターン(ピープコード)をメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

Microsoft Windows Advanced Server, Limited Edition 1.2のインストール

本装置で使用するオペレーティングシステム「Microsoft Windows Advanced Server, Limited Edition 1.2(以下、「Limited Edition」と呼ぶ)」について、インストールの際の注意事項やインストール手順を説明します。

WindowsやLimited Editionに関する詳細については、WindowsやLimited Editionに添付の説明書やオンラインマニュアルなどを参照してください。

セットアップをはじめる前に

セットアップを始める前に次の点に注意してください。

● ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクに再インストールする際に、既存のパーティションを残したい場合は、次の点に注意してください。

- － OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- － OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択してください。

● ハードディスクの接続について

OSをインストールするハードディスクを接続しているSCSIコントローラ以外のSCSIコントローラにハードディスクを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

● ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストールを完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]の[ディスクの管理]から行えます。

● AIT装置の接続について

インストール時にAIT装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されません。AIT装置を外してインストールを最初からやり直してください。

● 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{array}{lcl} 1635\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} & & \\ 1635\text{MB} & = & \text{インストールに必要なサイズ} \\ \text{ページングファイルサイズ(推奨)} & = & \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\ \text{ダンプファイルサイズ} & = & \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \end{array}$$



上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。

例えば、搭載メモリサイズが1024MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$1635\text{MB} + (1024\text{MB} \times 1.5) + (1024\text{MB} + 12\text{MB}) = 4207\text{MB}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り振ることで解決できます。

1. インストール時に必要なサイズ+ページングファイルサイズを設定する。
2. 43ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。
(ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は、インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズでインストール後、新しいディスクを増設してください。)

● セットアップに必要なもの

作業を始める前に以下のディスクと説明書を用意してください。

- WinADSV L.E 1.2 再インストール用 バックアップCD-ROM
- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- ユーザーズガイド



Windows Advanced Server, Limited Edition CD-ROMを使用してインストールをしないでください。必ずWinADSV L.E 1.2 再インストール用 バックアップCD-ROMを使用してください。

インストール手順

次の手順に従ってインストールをします。

1. システムの電源をONにする。
2. ExpressサーバのDVD-ROMドライブにWinADSV L.E 1.2 再インストール用 バックアップCD-ROMをセットする。

重要

Windows Advanced Server, Limited Edition CD-ROMを使用してインストールしないでください。必ずWinADSV L.E 1.2 再インストール用 バックアップCD-ROMを使用してください。

3. WinADSV L.E 1.2 再インストール用 バックアップCD-ROMをDVD-ROMドライブにセットしたらリセットするか、電源をOFF/ONにしてExpressサーバを再起動する。

ヒント

再インストールの場合は、以下の操作を行ってから手順4へ進んでください。

- (1) EFI Bootマネージャで「Boot option maintenance menu」を選択し<Enter>キーを押す。
 - (2) Main menuで、「Delete Boot Option(s)」を選択し<Enter>キーを押す。
 - (3) 「Microsoft Windows .NET Enterprise Server」を選択し、<Enter>キーを押す。
 - (4) 「Delete selected Boot Option[Y-Yes, N-No]と表示されるので<Y>キーを押す。
 - (5) Delete Boot Option(S)画面で、「Exit」を選択し<Enter>キーを押す。
 - (6) 「Save NVRAM?」と表示されたら、<Y>キーを押す。
 - (7) Main Menuで、「Exit」を選択する。
4. EFI Bootマネージャで「EFI Shell [Built-in]」を選択して<Enter>キーを押す。
Shell画面が表示されます。
 5. fsX: Acpi(HWP0002,0)/Pci(2;0)/Ata(Primary,Master)/CDROM(Entry0)の中の「X」に入っている数字を確認する。
以降は、「X」に入っている数字が「0」として説明します。
 6. Shell>の後に、「fs0:」と入力し<Enter>キーを押す。
Shell>fs0:

ヒント

「:」(コロン)を入力する場合は、<Shift>キー + (ひらがなの)<れ>キーを押してください。詳細は、70ページの「EFI Bootマネージャ」を参照してください。

コマンドプロンプトが「fs0:\」にかかります。

7. fs0:\>の後に「setupldr」と入力し、<Enter>キーを押す。

```
fs0:\>setupldr
```

「Express Setup」を選択すると、インストール中に、「プロダクトキーが違います」と表示されますが、正しいプロダクトキーを入力することで、セットアップを継続することができます。

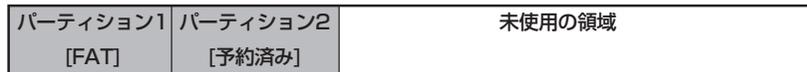
8. メッセージに従ってセットアップを続けインストールを完了させる。

重要

以下のメッセージが表示された場合は、<Enter>キーを押して続行してください。

「既存のシステムパーティションを検出できませんでした。」

初めてセットアップを行う時、ハードディスクの構成は以下のようになっています。「パーティション1 [FAT]」と「パーティション2 [予約済み]」は、絶対に削除しないでください。



削除しないでください

インストールが完了したら、管理者権限のあるアカウント (Administrator など) でログオン後、この次の「システムのアップデート」進んでください。

システムのアップデート

管理者権限のあるアカウント (Administrator など) で、システムにログインした後、CD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をExpressサーバのDVD-ROMドライブにセットしてください。表示された画面「マスターコントロールメニュー」の[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

重要

システム構成を変更した場合も必ずシステムのアップデートを行ってください。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。

ドライバのインストールと詳細設定

本体標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。DVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」をセットしておいてください。

ここで記載されていないオプションデバイスのドライバのインストールやセットアップについては、オプションデバイスに添付の説明書を参照してください。

セットアップの完了後、続いて「障害処理のセットアップ」に進んでください。

ネットワークドライバ(Limited Edition用1 Gb NIC Driver)

ネットワークドライバ(Limited Edition用1 Gb NIC Driver)のアップデートについて説明します。

1. スタートメニューから[管理ツール]をポイントし、[コンピュータの管理]をクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
2. 左ウインドウの[デバイスマネージャ]をクリックし、右ウインドウに[デバイスマネージャ]を表示させる。
3. 右ウインドウの[ネットワークアダプタ]の下の[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet]を右クリックし、[ドライバの更新]を選択する。
4. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されたら、[ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
インストールの完了を知らせるメッセージが表示されたら、更新の完了です。
5. [デバイスマネージャ]内の[Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet]を右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]をクリックして、ドライバタブからドライバのバージョンが[2.82.0.0]となっていることを確認する。

ネットワークドライバ(10/100 Base NIC)

ネットワークドライバ(10/100 Base NIC)は自動的にインストールされていますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。



ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。



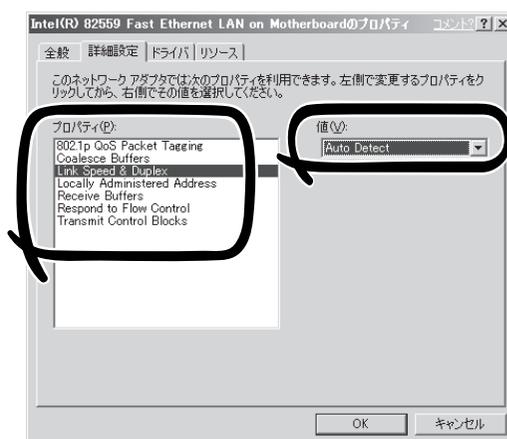
- コントロールパネルの[プログラムの追加と削除]で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはバケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。

インストール手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

- ここでは、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。
 - － [タスクバー[スタート]メニューのプロパティ]の[[スタート]メニュー]タブで [クラシック[スタート]メニュー]が選択されている。
 - － フォルダーオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択されている。
 - － クラシック表示になっている。

1. スタートメニューから[設定]→ [コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[ネットワーク接続]をダブルクリックする。
[ネットワーク接続]ウィンドウが表示されます。
3. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [構成]をクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
5. [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
6. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。



グラフィックスアクセラレータドライバ(Limited Edition用Embedded Video driver)

次の手順でドライバのアップデートをします。アップデートの後、必要に応じて表示の設定などをしてください。

1. スタートメニューから[管理ツール]をポイントし、[コンピュータの管理]をクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
2. 左ウインドウの[デバイスマネージャ]をクリックし、右ウインドウに[デバイスマネージャ]を表示させる。
3. 右ウインドウの[ディスプレイデバイス]の下の[標準VGAグラフィックアダプタ]を右クリックし、[ドライバの更新]を選択する。
4. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されたら、[ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
インストールの完了を知らせるメッセージが表示されたら、更新の完了です。
5. [デバイスマネージャ]内に[RADEON 7000 REDEON VE Family]ができていることを確認する。

その他のデバイスドライバ

オペレーティングシステムのインストール後、以下の手順でドライバをアップデートしてください。

Limited Edition用PCI Serial Port driver/ Limited Edition用PCI Simple Communication Controller driver

1. スタートメニューから[管理ツール]をポイントし、[コンピュータの管理]をクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
2. 左ウインドウの[デバイスマネージャ]をクリックし、右ウインドウに[デバイスマネージャ]を表示させる。
3. 右ウインドウの[?その他のデバイス]の下の[PCIシリアルポート]を右クリックし、[ドライバの更新]を選択する。
4. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されたら、[ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
インストールの完了を知らせるメッセージが表示されたら、更新の完了です。
5. [デバイスマネージャ]内に[HP Management Processor]ができていることを確認する。
6. [デバイスマネージャ]の右ウインドウの[?その他のデバイス]の下の[PCIシンプル通信コントローラ]を右クリックし、[ドライバの更新]を選択する。
7. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されたら、[ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
インストールの完了を知らせるメッセージが表示されたら、更新の完了です。
8. [デバイスマネージャ]内に[HP MP Serial AUX/UPS Port(COM3)]ができていることを確認する。

Limited Edition用BMC null driver

1. スタートメニューから[管理ツール]をポイントし、[コンピュータの管理]をクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
2. 左ウインドウの[デバイスマネージャ]をクリックし、右ウインドウに[デバイスマネージャ]を表示させる。
3. 右ウインドウの[?その他のデバイス]の下の[不明なデバイス]を右クリックし、[ドライバの更新]を選択する。
4. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されたら、[ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックする。
インストールの完了を知らせるメッセージが表示されたら、更新の完了です。
5. [デバイスマネージャ]内に[HP Baseboard Management Controller]ができていることを確認する。

その他のデバイスドライバ

その他、本体標準のデバイスドライバは、自動的にインストールされます。
主なものを以下に示します。

- DVD-ROMドライブ(ATAPI)
- USB
- マウス
- キーボード
- システムデバイス

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のセットアップをしておいてください。セットアップの完了後、続いて「管理ユーティリティのインストール」に進んでください。



ここでは、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。

- [タスクバー[スタート]メニューのプロパティ]の[[スタート]メニュー]タブで[クラシック[スタート]メニュー]が選択されている。
- フォルダーオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する]が選択されている。
- クラシック表示になっている。

バックアップツールのセットアップ

OS標準バックアップ(Ntbackup)や市販のバックアップツールを使ってシステムのバックアップを定期的にとっておくことをお勧めします。本装置で使用できるバックアップツールについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。



- OS標準バックアップ(Ntbackup)で、[バックアップ]タブからスケジュールバックアップを実行しても、スケジュールが正常に動作しません。現時点では[スケジュールジョブ]タブから[ジョブの追加]をクリックすることで代替えることができます。なお、本事象は、Windows .NET Server 2003製品版で修正される予定です。
- OS標準バックアップ(Ntbackup)の自動システム回復セットから、システムを復旧させることはできません。システム状態データを含むバックアップセットを作成するようにしてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

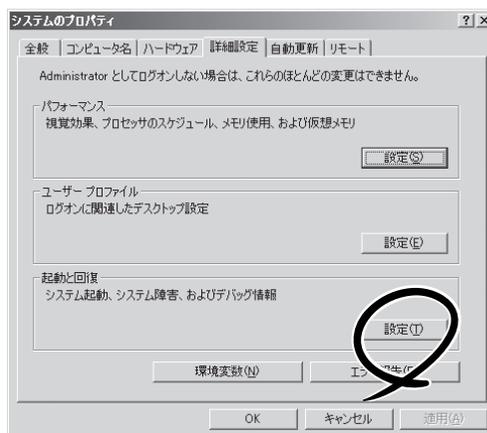


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。
- 1GBを超える物理メモリを搭載した場合は、WINLE-001 (MS QFE:Q810079) アップデートディスクを使用して、システムのアップデートを行わないと、メモリダンプが採取できません。なお、このアップデートディスクは、「NEC 8番街」(<http://nec8.com/>) からダウンロードすることができます。
- メモリを搭載した場合は、メモリダンプの設定をし直す必要があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[設定]→ [コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[システム]をダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細設定]タブをクリックする。
4. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

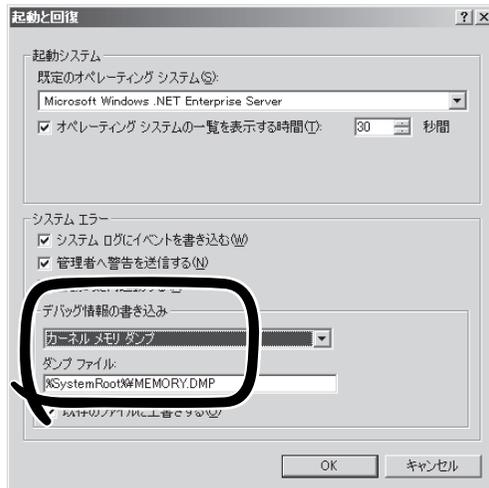


5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

メモリを増設した場合は、デバッグ情報を書き込む場所に、「なし」を選択し、[OK]をクリックしてから、もう一度、「カーネルメモリダンプ」に設定し直してください。

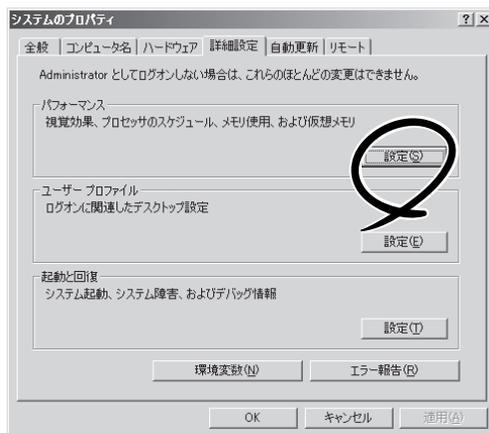


重要

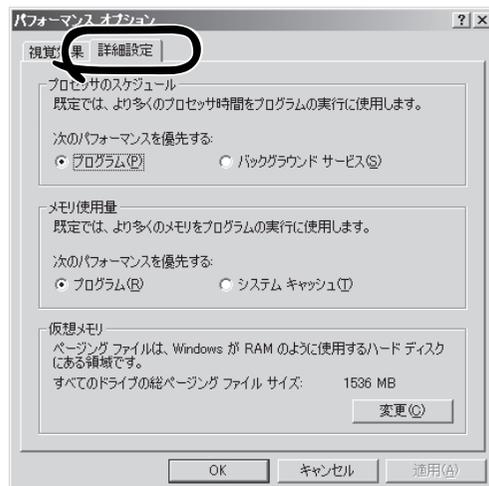
- [デバッグ情報の書き込み]は[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- Expressサーバに搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量を確認してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合は完全メモリダンプは選択できなくなります。

6. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

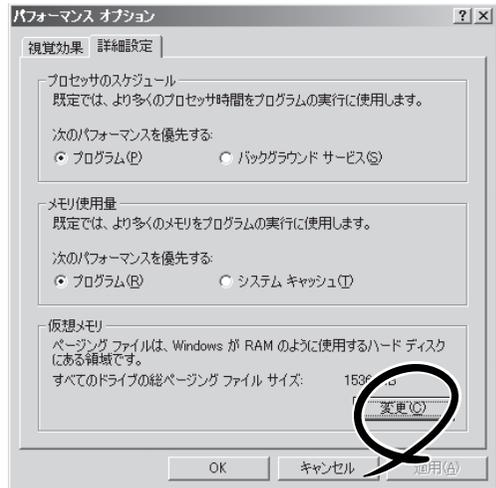
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



7. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



8. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

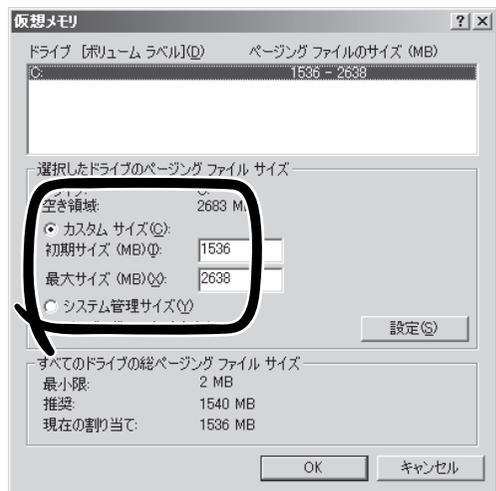


9. [選択したドライブのページングファイル サイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。

重要

- 必ずOSパーティションに搭載メモリサイズの1.5倍を目安にページングファイルを作成してください。
- ページングファイルの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティション以外のパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブをOSパーティションに変更してください。



11. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。

1. スタートメニューから[設定]→ [コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[プログラムの追加と削除]をダブルクリックする。
[プログラムの追加と削除]ウィンドウが表示されます。
3. [Windowsコンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ウィンドウが表示されます。
4. コンポーネントの[管理とモニタツール]を選択し、[詳細]をクリックする。
[管理とモニタツール]ウィンドウが表示されます。
5. 管理とモニタツールのサブコンポーネントの[ネットワークモニタツール]の
チェックボックスをオンにして[OK]をクリックする。
6. [次へ]をクリックする。
ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、WinADSV L.E 1.2再インストール用
バックアップCD-ROMをDVD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、Expressサーバ購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

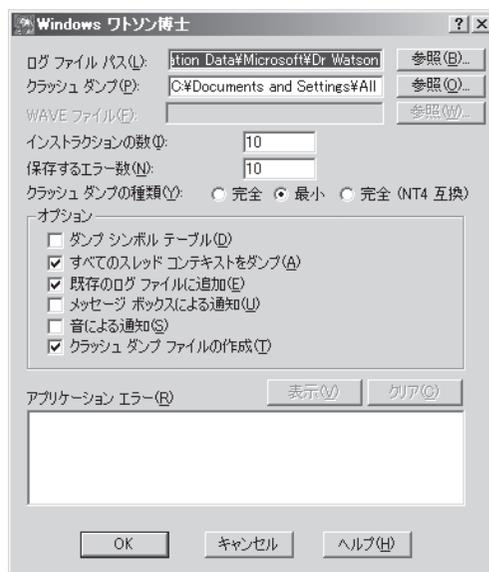
ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
 - ダンプシンボルテーブル
 - すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - 既存のログファイルに追加
 - クラッシュダンプファイルの作成
6. [OK]をクリックする。

EXPRESSBUILDERについて

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000/XP、Windows NT 4.0、Limited Edition、Windows .NETが動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、またはWindows 2000/XP、Windows NT 4.0、Limited Editionで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



チェック

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないことがあります。そのようなときは140ページを参照して関連付けを再設定してください。

メニューは、IA64版Windows上で動かしたときとIA32版Windows上で動かしたときで、表示される項目に差があります。表示されない項目は、そのWindows上では実行できませんので注意してください。



ヒント

Acrobat Readerは、IA32版Windows上からインストールが可能です。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



重要

CD-ROM をドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

RASユーティリティ(EFI)について

システムのRAS機能(Reliability, Availability, Serviceability)を高めるためのユーティリティ「System event log(SEL)」、「Sensor Data Record(SDR)」、「Field Replaceable Unit(FRU)」をコマンドにより表示することができます。

- **iselコマンド(SEL)**

システムで発生した事象を記録したログデータを表示します。

- **isensorコマンド(SDR)**

システム上の各種センサのデータ(状態)を表示します。

- **ifruコマンド(FRU)**

装置の製品情報を表示します。

各コマンドの詳細については、3章を参照してください。

バンドルソフトウェアについて

本装置に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているバンドルソフトウェアについて紹介します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)は、本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。

インストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。



運用上の注意事項についても、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版) インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

SNMPサービスの設定について

ESMPRO/ServerAgent を動作させる前に、SNMPサービスの設定が必要です。SNMPサービスの詳しい設定方法は、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド」を参照してください。ここでは、オンラインドキュメントを補足する形で設定すべきことを記載します。必ずオンラインドキュメントと合わせて利用してください。

「SNMP Serviceのプロパティ」ダイアログボックスの[セキュリティ]プロパティシートを表示します。

- 「受け付けるコミュニティ名」に使用するコミュニティを追加します。
この時追加するコミュニティは、[トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに設定したコミュニティ名を使用します。
- 「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択せずに、「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択した場合、「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド」の「SNMPサービスの設定」の「SNMPサービスの設定変更」の手順6にある「<特定のホストからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>」をよく読んで、設定してください。

特定のホスト設定しない場合は、「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択してください。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。

Power Console Plus

Power Console Plusはディスクアレイコントローラシステムを構築している本体の監視・管理用のアプリケーションです。本体に「Power Console Plus(サーバ)」を、ネットワーク上の管理PCに「Power Console Plus(管理PC)」をインストールして運用・管理します。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

Power Console Plus(サーバ)

本体にインストールする「Power Console Plus(サーバ)」のセットアップについて説明します。

Power Console Plus(サーバ)をインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールをしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

Power Console Plus(サーバ)をインストールする前に

Power Console Plus(サーバ)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- ディスクアレイコントローラがシステムに取り付けられていること
- ディスクアレイコントローラのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Internet Explorer 4.01 Service Pack 2以降がインストールされていること

Power Console Plus(サーバ)のインストール手順

Power Console Plus(サーバ)のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。Windows 2000ではEXPRESSBUILDERをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]—[ESMPRO]—[関連ユーティリティメニューへ]—[Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ+管理サーバ」をチェックし、[次へ]をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視をする場合は別途、Power Console Plus(管理PC)のインストールを行ってください。



上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(サーバ)の環境設定

- HOSTSファイルの設定

ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ/管理PCおよび管理サーバのIPアドレスとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- REGSERV.DATの設定

ネットワーク経由で制御する場合は管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- パスワードファイルのアクセス権設定

「c:¥Windows¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」で設定します。

セキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権をAdministrator権限などに変更してください。

Power Console Plus(管理PC)

Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照してください。

以下の説明を参考にしてPower Console Plus(管理PC)を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズマニュアル」を参照ください。

Power Console Plus(管理PC)をインストールする前に

Power Console Plus(管理PC)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、Service Pack 5以降が適用されていること
- Internet Explorer 4.01 Service Pack 2以降がインストールされていること



Internet Explorer 4.01 Service Pack 2以降はWindows NT 4.0のService Pack 5または6a媒体からインストールできます。

Power Console Plus(管理PC)のインストール手順

Power Console Plus(管理PC)のインストールは添付のEXPRESSBUILDERを使用します。Windows 2000、Windows NT 4.0、およびWindows 95/98/MeではEXPRESSBUILDERをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ] - [ESMPRO] - [関連ユーティリティメニューへ] - [Power Console Plus]の順にクリックします。

ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」または「管理PC+管理サーバ」をチェックし、[次へ]をクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。



上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(管理PC)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

管理サーバとすべてのサーバ/管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。

- **REGSERV.DATの設定**

管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。

- **ESMPRO/ServerManagerとのメニュー連携の設定**

システムにESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、EXPRESSBUILDERの「ESMPRO¥JP¥1386¥PCON¥PCPESMSM.EXE」を実行してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

インストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

オンラインドキュメントは、EXPRESSBUILDER」CD-ROMの中にあります(CD-ROMをセットすると自動的に表示される「マスターコントロールメニュー」から表示させることができます)。

以下の通報手順は、Microsoft Windows Advanced Server, Limited Editionのリモートアクセスサービスの不具合により使用できません。

- マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)
- インターネットメール経由でのエクスプレス通報サービスのリモートアクセスサービス

